

令和7年度 今治市放課後等デイサービス連絡協議会（第2回）議事録	
日時	令和7年7月4日（金）13：30～16：45
場所	大西公民館 大ホール
出席者	おくらっこくらぶ、おひさまきっず、キート今治（北クラス）、青藍学舎、発達支援 Rocoko、ちゃぼとひよこ（延喜・かなん・しまなみ）、チャレンジスクールえーる、ぽっぽ白鳩、つくし、はーもに一、ヘレンキッズ、初風西条楠、夢門塾ゆうゆう、めいめい、相談ひろば栄光 相談支援センターペペ、相談支援センターアゼリア、障がい福祉課、他市外事業所等
<p>1部：講演 『報酬改定の見直し、放課後等デイサービスの支援体制の今後の展開について』 子ども家庭庁支援局 障害支援課 課長補佐 鈴木久也氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのこどものウェルビーイングの向上に向けて、地域が豊かにならないといけない。 <p>2部：グループワーク→質疑応答 6グループに分かれて、鈴木氏への質問を話し合い発表する。</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携が難しい。今後のビジョンやコツがあれば教えていただきたい。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国区的な課題であり、「まず理解してもらおう」ことが必要。事例としては、放デイの参観日を設定し見てもらう取り組みをした地域があった。 <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の報酬改定時、事業所運営は特定プログラムなどの専門的支援か総合的支援かで二分化するような情報が出ていたのに、5領域を満たす支援になった舞台裏が知りたい。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実は共同通信が勝手に記事を出したので混乱した。有識者が話し合いを重ねていき、『5領域を満たした上で専門的な部分を組み入れるのは可』の流れになった。また、医療がひっ迫にた現状なので、福祉のサービスの中で機能訓練などができれば尚良いのではないかと考えられた。 <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢やニーズが違う児童の活動内容の設定が難しい。どのようなプログラム設定が良いのかが課題。 <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢等で分けることは本末転倒であり、異年齢と遊ぶこともよいことである。例えば、野球をするなら学年によってルールを変えながらアイデアを出してやってみることを提案したい。 このような事案こそ連絡協議会でぜひ事例検討会をしてみてもうでしょうか。 <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育と居場所は両立するのか？ <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H24年に放デイが本格始動して報酬に振り回されてきた時代。ここからが中身が伴うよう検証していく時代になる。保育をしていく中で、特性によるつまづきが出た時、オーダーメイドでその子が輝けるような、溶け込んだ専門性をぜひ発揮してほしい。 <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政とのやりとりの難しさを感じている。地域づくりのために一職員ができることは何か？ <p>回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域体制を一緒につくるものである。ぜひ、事務局が中心になってほしい。まずは、今治市のような連絡協議会で個人がアウトプットしていく。そういう人が増えれば、人材育成の研修や体制整備ができるようになり、おのずと子ども中心の社会になっていくはず。 	

質問

- ・相談事業所との連携が難しい。また、学校教員が保育所等訪問を知らない。

回答

- ・ぜひこの後の、保育所等訪問の実践のお話を参考にしてください。その子のことを事業所・学校・みんなで考えることが大切で、その為の場づくりが難しい。工夫して場を作ることをお勧めしたい。

質問

- ・地域にもよると思うが、支援学校の送迎バスの利用の仕方に疑問を感じる。学校からの距離に応じて利用できるかが決められ、重度だが近い児童の保護者は大変そうだ。

回答

- ・全国的な問題である。委託している場合が多いのでバス内の支援ができていないことも課題である。

質問

- ・相談員のなり手が少ない。

回答

- ・過渡期だと把握している。そもそも、セルフプラン＝悪である風潮がある。相談員の役割を今後ははっきりさせることが課題だと考えている。家族、子どもの幸せのためにできることを打ち出したい。

3部：保育所等訪問の実践について（抜粋）

【児童発達支援事業所での保育所等訪問支援について：は一もに一】

- ・一番最初に、お母様・園・相談事業所・児童発達支援事業所で顔合わせをしますが、その時間がとても重要だと感じています。園の先生との信頼関係ができれば、先生と子どもさんとの関係も良い関係につながっています。こちらからの提案を園の先生が『やってみます！』と前向きに実践してくれることもあります。なかなか理解が得られなかった経験もありますが、良好な関係を築けるよう、今後も懸け橋になりたいと思います。

【放課後等デイサービスでの保育所等訪問支援について：ちゃぼとひよこ延喜】

- ・大切にしていることは①相手を知ること②話を深く聞くこと③しっかり共有をすることです。また、準備をすることが大切だと感じており、まず、入る学校の校長先生に保育所等訪問の説明と挨拶を先にしてから、担任の先生と対面しています。知らない人からの依頼のこともあり、まず、雑談などでその人を知ってからの方が、悩みなどを聞けると感じています。子どもの困りごとをまず知り、先生や保護者の思いを聞く。そして困りごとひとつが解決したら、終了にしています。

【不登校支援について：青藍学舎】

- ・放課後等デイサービスの時間帯とは別にフリースクールタイムとして13時～15時を設定しています。エネルギーがたまるまで待つことを基本とし、本心を引き出せるように対話を重ねています。その上で本人から『行ってみよう』と思うまで待ちます。本人のことを理解し、困り感が何かを知ったうえで支援をしています。今後の不登校支援は居場所作り・1人1人に向き合い考えること・学び方等の課題がありますが、地域で支えていける仕組みを作りたいです。

次回の放課後等デイサービス連絡協議会

期日：10月29日（水）10：00～12：00 計画相談事業所と放課後等デイサービス事業所との交流会
場所：今治市総合福祉センター 4F 多目的ホール